

## 第4期鹿児島県教育振興基本計画検討委員会（第2回）について

### 1 開催日時・場所

日時：令和5年9月5日（火） 午前10時から正午まで

場所：県行政庁舎 16階 教育委員会室

### 2 出席委員

有倉委員，萩原委員，岩橋委員，大脇委員，南委員，原田委員，木志委員

### 3 協議内容

#### (1) 第4期鹿児島県教育振興基本計画骨子（案）について

##### 基本目標について

- ・ 主題の「共に」が「共同」の意味で受け取られる可能性がある。最近では、「協働」もよく使われるため、ひらがな表記などの工夫をしてはどうか。
- ・ 現在の目標案では、まず、個人の夢や希望を実現した上で、未来を創るといった段階を感じる。夢や希望の実現が豊かな地域や社会を創ることと繋がるのが大切だと思う。「ともに未来を創るために夢や希望を実現する鹿児島の人づくり」「夢や希望の実現に向けてともに未来を創る鹿児島の人づくり」といった表現でどうか。
- ・ 「知・徳・体の調和がとれ」といった表現は、「全ての人の可能性を引き出す」「共生社会の実現を目指し、その実現に向けた社会的包摂の推進」といった内容から考えると適さないのではないか。例えば、「個に応じた、知・徳・体の調和がとれ」といった表現も考えられる。
- ・ 目指す人間像について、1が社会貢献で2が個人の自己実現となっているため入り組んでいる感じがする。まず、個人のことから社会性といった順番の方がよいのではないか。
- ・ 基本目標について、「夢や希望の実現に向けて」とすることで段階的な感じがしなくなるのではないか。
- ・ 基本目標の「誰もが幸せや豊かさを感じられる地域や社会」とあるが地域や社会をすっきりした表現として「共生社会」としてはどうか。
- ・ 夢や希望は、遠いところにあるものではなく、夢や希望を実現し続けることがウェルビーイングの実現に繋がっていくと考えている。副題の目指す社会像のところ夢や希望を実現し続けるといった意味合いも含まれていると思うが、「夢や希望を実現し続ける」といったことが基本目標に示されてもよいのではないか。

##### 本県教育の取組における視点について

- ・ 教育デジタルトランスフォーメーションの推進の追加は必要だと思う。
- ・ 視点3「一人一人が幸せや生きがいを感じることでできる生涯を通じた教育環境づくり」についてハード面での環境づくりにおいては理解できるが、ここでは、一人一人の幸せや生きがいといった内面的な部分でのウェルビーイングを支えていくといった環境づくりという捉え方も必要なのではないか。
- ・ 視点4「学校・家庭・地域・企業等の積極的な連携・協働」について、それぞれの役割分担を明確にすることが大切だと考える。コストも無限にかけられるわけではないので、少ないコストで最大の効果をあげるためにも、それぞれの役割が具体的に分かるようなかたちで具体的施策に反映させてほしい。

- ・ 視点2「社会の変化を乗り越える」について、変化に対応するだけでなく、「乗り越えていく」という新しい視点が入ったが、「乗り越えるだけでいいのか」とも考える。単に、乗り越えるだけでなく、創り手になっていくというニュアンスも表現できたらよいと思う。
- ・ 国際調査を見てみると、日本の若者が一番「社会は変わらない」といった諦めが大きいというデータもあり、年齢が上がるにつれてそういった意識が高くなる傾向にある。こういったことは、教育上の問題でもあり、教育の力で克服していくという視点に立つならば、単に「乗り越える」だけでなくもっと強いメッセージがあってもよいのではないか。
- ・ 新学習指導要領に基づいた新しい授業のあり方など、教育のあり方が見直されている中、それを全うできる人材をどう育成していくか、また、本県公立学校教員等採用選考試験においても、小学校教員の受験倍率が1.3倍という状況を見ると、今後、教員のなり手不足は非常に大きな問題である。そういった意味でも、働き方改革をしっかりと進めていくことが必要だと考えている。そのためには、DX（デジタルトランスフォーメーション）についても具体的に触れていく必要があると考えている。

#### 本県教育施策の方向性について

- ・ 方向性Ⅱに関して、「自立する力」とあるが、自立するところの先が見えないので、基本目標の言葉を持ってきた方がよいのではないか。
- ・ 方向性Ⅲ「信頼され、地域とともにある学校づくり」、Ⅴ「生涯を通じて学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興」に関して、施策を実行できるハード面もソフト面と整合性をもって実行していく必要がある。例えば、他県では、小学校にはプールを作らず、民間のプールを使用するという取組も聞いている。また、図書館や体育館などを地域の方々が利用できるようにする取組も聞いている。このように学校づくりを変えていくというニーズも踏まえて、方向性に示されている「学校づくり」「環境づくり」について、認識を共通させていくことが大切だと思う。
- ・ 方向性Ⅴの「地域」とは、どこまでの範囲を指すのか。地域の中までいろいろ求められると、若い世代には負担に感じることもあるのではないか。
- ・ 視点にある「教育デジタルトランスフォーメーション」に関するところが、方向性のところでは具体的に見えていない。このことは、全体に通じるところなので、ここで表現するかどうかはあると思うが、何らかの形で構造化して示すなど、視点と方向性の部分で見えやすくすることはできないかと感じる。

#### (2) 第4期鹿児島県教育振興基本計画具体的施策（案）について

##### 具体的施策について

- ・ 国際理解教育の位置づけが大きくなっている。グローバルに活躍できる人を増やそうということだと思うが、大切なのは、しっかりと国際理解していろいろな人と共生していくということが重要だと思う。そのことは、地域の生活の中でも重要な視点であり、そういった意味合いでこの言葉を使っていきたい。  
また、いろいろな国の考え方があり、それぞれをリスペクトすることが国際理解だと思う。そうすることが、共生することや紛争をなくすとかにつながる。なかなかそこまで踏み込むことは難しいと思うが、国際理解教育・平和教育ぐらいになるとすっきりすると感じる。

- ・ 教員不足の問題も働き方改革の中に含んでいるのか。含んでいるのであれば、人材確保もしっかりと位置付けてほしい。また、現在も働き方改革が行われているが、今ある枠組みの中での改革になってしまいがちなところもある。教員の人材確保を含めて、クラスの人数、部活動の問題等大きな枠組みそのものを変えるという視点での働き方改革だという理解をしたい。
- ・ 生涯教育は、どちらかというところ個人の発達というところが中心になり、今回の県計画では、社会づくりということも大切なことから、生涯学習環境の充実に「社会教育」も入れ込んでほしい。
- ・ 「学校における働き方改革の推進」について、対話をしていくことがとても大切だと思う。家庭や地域・企業等の理解が得られて、学校における働き方改革や役割分担がうまく機能していくと考える。学校においても働き方改革が進められているが、家庭や地域・企業等においても働き方改革が進められているということへの配慮も必要だと思う。
- ・ 働き方改革については、人材確保という視点も含めての施策であってほしい。
- ・ 業務改善を進めていくと同時に、働き甲斐があるとか、教職の魅力とかそういったモチベーションを高めていくことも大事にしてほしい。
- ・ 教育デジタルトランスフォーメーションという視点があるので、具体的な施策の「教育の情報化」という部分にもう一步踏み込んだタイトルが望ましい。
- ・ 家庭教育力の向上から家庭教育支援の充実に変わっているが、何となくではあるがこれまで地域の家庭教育で育んだものがなくなる印象を受けてしまう。
- ・ 教育デジタルトランスフォーメーションについて、言葉をもっと前に打ち出す必要があると思う。